

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2774500686
法人名	社会福祉法人 水平会
事業所名	認知症高齢者 グループホーム ホライズン
訪問調査日	平成 20 年 8 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2774500686
法人名	社会福祉法人 水平会
事業所名	認知症高齢者 グループホーム ホライズン
所在地	大阪府泉佐野市上瓦屋982-2 (電話) 072-460-0090

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年8月26日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成20年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円	
敷 金	有(円)	無	○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東佐野病院	かめもと歯科医院
---------	-------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成7年の阪神淡路大震災のとき、この地域の方々がボランティアとして炊き出しなどの奉仕をされ大災害の現実を実感された。その経験を活かそうと地域の人を自分たちの手で守ろうという意志のもとに社会福祉法人水平会を設立された。そしていち早く介護老人保健施設を設立しその後、認知症高齢者グループホーム、特別養護老人ホーム、知的障害者デイサービスセンターなどを次々と設立。福祉の先駆者としてこの地域に大きく貢献されている。グループホームもこれらの施設の一角にあり併設施設としてのメリットを充分享受されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は災害対策の充実と事業所の分かりやすい表示方法であった。災害対策については、非常食の備蓄、事業所独自の夜間を想定した避難訓練など積極的に改善の取り組みが行われていた。事業所の表示については、法人全体のどの位置にあるのか分かり難い。いっそうの取り組みが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者を中心にして、職員全員が検討するための会議を開き、項目毎に評価に取り組み、災害対策のための非常食の備蓄をするなど具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に一度、市役所の介護保険課担当者、家族会代表、老人会会長、民生委員等が参加、開催している。そこではサービス評価への取り組みの報告や事業所に対する要望など色々な話し合いを行っている。そこで出された意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には利用者の日頃の様子について、家族の訪問時は勿論のこと、月一回は便りを送付している。また、家族会は非常に言いやすい雰囲気であり、出された意見要望は記録しその課題を検討、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の納涼祭、保育所で行われる世代間交流等、地域の行事に積極的に参加し地元の人々と交流することに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で自分たちの目標とすべき理念を出し合って「明るく家庭的なG. H」「あたりまえの生活が出来るG. H」「人や自然、地域とのふれあいを目指したG. H」と事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所を入った正面に理念を大きく掲示し、毎日の申し送り時、月一回の会議等で共有、確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の納涼祭、保育所で行われる世代間交流会等、地域の行事に積極的に参加し地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員全員が理解し、検討するための会議を開き、災害対策のための備蓄をするなど具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、市役所介護保険課担当者、家族会代表、老人会会長、民生委員等が参加、運営推進会議を開催して。そこではサービス評価への取り組みの報告や施設に対する要望など色々な話し合いを行っている。そこで出された意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の介護保険課とは、事業所の実情やケアの取り組みについて、折に触れ相談し行政と共にサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や職員の異動等については、家族等の訪問時は勿論のこと、事業所の出入り口の伝言板に掲示したり月一回たよりを送付したりして報告している。金銭管理は毎月の請求書送付時に領収書を添付、詳しい内訳を同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等は意見が言いやすい雰囲気である。出された意見・要望は記録し、その課題を検討、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力、異動が無いように配慮している。本年の異動は二人のみで徐々に引き継ぐなど利用者へのダメージを防ぐ配慮もされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	G. H協議会では3ヶ月～4ヶ月に一度の研修会、法人内研修会は合同で随時行っている。研修会へ参加した職員は、研修後に報告書を提出し報告研修会を行い、全員がその知識の共有が出来るようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者G. H協議会に入会し他のG. Hと交流、接遇や感染症の予防、運営方法などについて相互研修を行っているが、泉佐野市内のG.Hとの交流がない。	○	他の市町村のG. Hとは交流、相互研修をされているが、泉佐野市内のG. Hとの交流が無い。市の介護保険課に働きかけ交流会を実現、より高い質の向上を図る努力をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの入居でなく、本人や家族等とよく話し、雰囲気徐々に馴染んで貰えるように心掛けている。併設施設からの入所の場合は、その施設の職員の訪問を得て、帰宅願望を防いでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に料理や園芸を教えて貰うなど、利用者がそれぞれの得意の分野で力を発揮、共に支え合う関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等から生活歴や色々な情報を得て、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で本人や家族等の意見を採り入れながら、ケアプランの作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しだけでなく、状況が変化した際には本人、家族等と話し合い、ケア会議に於いてアセスメント、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	突発的な通院などの外出は、家族等や職員が臨機応変に対応、その時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、日頃の本人の体調など連絡体制をとりながら、本人や家族等が希望されるようにしている。また、受診や通院は家族等の同行を基本としているが、不可能なときには職員が同行、受診のための支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアは行っていないが、重度化の対策や支援法をかかりつけ医、本人、家族等と話し合い内容は記録している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングで折りにふれてプライバシーを損ねることのないよう、確認と徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けをしたりコミュニケーションを図りながら、その人らしい生活が援助できるよう、無理強いせず、本人のペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の食材購入から献立作り、調理、盛りつけ、後片付けに至るまで利用者と共に行い、食事を目一杯楽しめる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週三回を目安に曜日や時間帯を取り敢えずは決めてはいるが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野で力が発揮できるよう、書道・お茶・ビューティークラブ・カレンダー作り・園芸クラブなど、多種多様なクラブを作り、楽しみごとと気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	二日に一度、車椅子の人も独歩出来る人も一緒に、散歩や買い物で外出している。また、一人で散歩できる利用者には、法人の敷地内を自由に散策して貰っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底しながら、日中は居室や玄関は勿論のこと外回りも鍵を掛けずに、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年二回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。二回の内一回は、夜間を想定した事業所独自の避難訓練で、三日分の非常食の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を毎日チェックし記録している。また、栄養バランスを考えながら一人ひとりの生活習慣に応じた支援にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、ソファーや椅子、掛け時計、カレンダーが極く自然に配置され家庭的な雰囲気を醸し出している。また、テーブルには庭に生えている草花を飾り、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族等と相談しながら思い出の写真や使い慣れた品物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		